朝日新聞外地版

【監修・編集】坂本悠一
九州国際大学教授

昭和10年～同20年に
台湾・朝鮮・満洲・中国に向けて
それぞれ発行された「外地版」を
地域毎に編纂する幻の植民地史料。

全68巻・別巻1

朝日新聞第一面で紹介！
（2007年3月31日夕刊）

ゆまに書房 YUMANI SHOBOU

監修のことば

九州国際大学教授　坂本悠一

このほど、ゆまに書房より朝日新聞西部本社（北九州市）に保存されている『（大阪）朝日新聞』の外地地方版として、一九三五～四五年に台湾・朝鮮・満洲・中国占領地で配布された紙面が復刻刊行されることになった。これらは、いずれも当時門司にあった大阪朝日新聞九州支社（三七年十月小倉に移転・四十年九月西部本社となり、紙名も『朝日新聞』と改称）で編集・発行されていた。余り知られていないが、北九州市には近年まで全国紙三紙の西部本社（九州各県・中国地方西部・沖縄ブロックを管轄）が置かれていた。朝日・毎日は現在も登記上小倉に所在するものの、実質機能は福岡市に移転し、読売は小倉から福岡に全面移転してしまった。読売は戦後の一九六四年になって小倉に進出したものであるが、毎日は一九二二年十一月に「西部毎日」（九州・朝鮮版）を、朝日は二五年四月に「九州朝日」「朝鮮朝日」を、いずれも門司で編集・発行し始めたのがもとである。当時の門司市は九州の玄関口であり、鹿児島・日豊本線という二大鉄道幹線の起点として新聞輸送の立地条件に恵まれていたが、同時に台湾・朝鮮・中国各地に向けて多数の航路が通う国際港湾都市であり、「日本帝国」圏域に向かって開かれた情報通信の重要拠点でもあった。そして、一九三五年二月十一日からは両紙が競って同時に九州七県・山口・沖縄・朝鮮・満洲・台湾（毎日は六月から）向け本紙朝夕刊の編集・発行を門司で開始したのであった。今回復刻されるのは、そのうちの外地版（一九三五年十二月～四五年三月分）であり、一九一三年～二五年の間大阪で編集・発行されていた「満鮮付録」「満鮮版」「朝鮮版」「台湾版」「満洲版」については、三五年十一月分までは、すでにマイクロフィルムの形で複製されている。それに続くこの時期は、日本帝国主義が日中全面戦争を経て、アジア支配の領域を拡大しつつあった時期に相当している。

日本近現代史を研究するうえで新聞が不可欠な資料であることは言うまでもないが、近年活発になりつつある日本の植民地・勢力圏・占領地などの研究については、まだ十分に活用されているとは言い難い状況にある。それは、これまで研究の主流であった植民地支配政策史にとって、新聞が必ずしも一級史料とされてこなかったことにもよる。確かに、新聞という媒体を通して報道される政治経済記事には、一次史料としての価値は低いのかも知れない。しかし、公式記録に残らない現地の日本人を含めた民衆生活の実態、大衆の感情、街や村の雰囲気という社会事象を探るうえで、植民地において日本語で書かれた新聞記事には大きな制約があったことを勘案しても、その資料的価値は無視できないものである。最近「植民地の日常生活」を対象とした社会史的な研究においても、現地の新聞、朝鮮の場合でいえば日本語紙『京城日報』、朝鮮語紙『毎日申報』『東亜日報』『朝鮮日報』など京城（現ソウル）で発行されていた中央紙か、主要都市で発行されていた地方紙などが主に利用されているもの、朝日・毎日という日本本国を代表する全国紙の外地版は、不思議にこれまで忘れられていたと言ってもよい。なお、『（大阪）毎日新聞』の外地版（朝鮮版の場合一九二六～四四年分）は、すでにマイクロフィルムの形で複製されているが、これまでの研究にはまだほとんど利用されていない。それは案外、これらが北九州という「片田舎」に埋もれていたことによるものかも知れないと思い、このほど『朝日新聞』の外地版の復刻を企画してみた。今回とくに紙の媒体に印刷され、手に取って読めるようになることの利便性は大きいと確信している。「日本帝国」史を研究する研究者・市民によって本資料が広く活用されることになれば、監修者としてこれにまさる喜びはない。

◆朝日新聞西部本社

一八九二（明治二十五）年、門司に社員出張所の設置されたことにはじまり、一九〇二（明治三十五）年、門司通信部、一九二四（大正十三）年、門司通信局、一九二五（大正十四）年、門司支局、一九三五（昭和十）年に九州支社となる。一九四〇（昭和十五）年、西部本社となった。その間、一九三七（昭和十二）年、小倉に移転している。

◆九州支社・西部本社の朝日新聞地方版

時期により変化はあるが、カバーする地域は、九州全県、沖縄県のほか、山口、広島、島根の中国地方西部と、朝鮮、満洲、台湾、そして北支、中支である。最大時、朝鮮は四版、満洲は二版あった。

歴史の問題提起者

東京経済大学教授
有山 輝雄

帝国日本の記憶は、いまや我々のなかでは葬り去れた感がある。しかし、帝国日本に矛先を向けられ、呻吟させられた人びとは、その記憶は決して忘れられることなく、さらに次世代に語り継がれようとしている。かつて帝国日本の正当性に何の疑いもなく生きた日本人とその圧制の下にあった人びととの間には大きな断層があったが、現在その断層はかえって深くなっている。

今回、復刻される『朝日新聞』の外地版は、われわれの意識の底に沈んでいた帝国の体験を否応なく甦らせる。同時代の記録者であったジャーナリズムは、そのことによってたくまずして歴史の問題提起者ともなっているのである。この新聞に示されている帝国日本の体験、そしてそれを記録した帝国日本のジャーナリズムという問題提起の意味を、どれだけ読み取れるかが現在の我々の責務であろう。その意味で、倉庫のなかの眠りから甦った、この貴重な記録は是非とも活用されなければならない。

戦時期植民地の具体的様相

京都大学教授
水野 直樹

日本支配下の植民地・占領地の新聞といえば、これまでは、当該地域で発行されていた日本語新聞や、支配を受ける側の発行する新聞が注目されてきた。朝鮮についていうと、朝鮮総督府機関紙の役割を果した『京城日報』（日本語）『毎日申報』（朝鮮語）や、朝鮮人経営の『東亜日報』『朝鮮日報』などが、歴史研究の基礎資料として利用されている。

しかし、日本「内地」で発行される新聞が「外地」への進出を積極的に図っていたことは、研究者の間でもあまり知られていない。実は、朝鮮での講読者は、『京城日報』などより『大阪朝日新聞』（一九四〇年から『朝日新聞』）などの方がはるかに多かったのである。例えば、一九三七年時点で『京城日報』の配布部数が約三万部だったのに対し、『大阪朝日新聞』六万六千部、『大阪毎日新聞』七万三千部という状況であった（朝鮮総督府警務局『昭和十二年中に於ける朝鮮出版警察概要』）。購読者のほとんどは在朝日本人だったが、彼ら／彼女らは、居住地のことより「内地」の動きを気にしていたのである。とはいっても、やはり居住地で何が起こっているかも知らねばならない。そのようなところから、『大阪朝日新聞』などは、一九一〇年代から「満鮮版」「朝鮮版」などの地域ニュースのページを設け、それを本紙の附録として配布するという方法で購読者を拡大した。

このようにして製作された外地版は、植民地や「満洲国」の事情を知るうえで、今日でも有用な資料として残っている。とりわけ、今回復刻される一九三五年から一九四五年までの外地版は、戦時期の植民地・「満洲国」を研究する者にとって不可欠の資料というべきである。狭義の意味でのアジア・太平洋戦争期については資料がきわめて少ないことを考えると、外地版に掲載された記事を通じて当時の社会・文化の具体的様相を明らかにし得ることが期待される。もちろん戦時期の厳しい検閲や、資源不足から来る紙面の制約などのために、内容のある記事がどれだけあるか疑問もあり得よう。しかし、そのような記事であるとしても、そこから「真実」を読み取る努力をしなければならない。『朝日新聞外地版』はそれに値する資料である。

●原寸本文見本　「南鮮版」1935（昭和10）年12月27日

大阪朝日　南鮮版
京城　道信局南大門通（電本局三五二五）
釜山　道信部（釜山二四七六）大町一丁目
光州　道信部光州府明治町二丁目
大邱　道信部大邱府七星町四〇九

小學

兒童の六割以上 全然内地を知らぬ

年毎に激増の一途

在鮮小學兒童中には内地の實際を知らないものが非常に多く、國體觀念養成上にも不便の點が多々あるとされ、總督府學務局ではこれが對策を研究中のところ、さしあたり各道學務課に命じて管内小學兒童の内地經驗有數および朝鮮在れの兒童數を調査中で、京城府學務課でも二十四日府内十小學校の調査を行つた、右によると兒童總數一萬六千百四十八名中内地經驗者は六千二百六名で、全然内地を知らないものは實に九千九百四十二名に達し、内地經驗者は總數の僅か三十八パーセントにしか當らない、これを大正八年の四十五パーセントに比べすばすに十八パーセント乃至二十パーセントの激增となつてゐる

半島の金産額は 歐洲全體に匹敵

石田鑛山課長の洋行土産

石田鑛山課長

本年五月以來歐米視察洋行中であつた石田朝鮮鑛山課長は二十五日朝入港の鬱陵丸で釜山上陸、東京駅に一泊の上三十六日午前七時三十分釜山機關發急「のぞみ」で歸城したが、土産話に曰く

歐洲新興諸國で渡歐、イタリーを振出しにフランス、ベルギー、オランダ、ドイツその他の歐洲各國を視察し十月イギリスに渡り十一月渡米し歸國したが、各國ともいはゆる非常時で財政の建直しに狂奔しをり、不況の深刻さには驚いた、歐洲の鑛石採は相當に豐富だが、金鑛の方は歐洲全體の産額が朝鮮の産額と同じ程度でお話しにならない貧弱さだ、鑛産政策は各國ともはゞ我が國と同樣で奬勵事業に對しては極力國家が支援し、ことに製鑛方面には力を注いでゐる、今回の視察で各國をみて朝鮮の地下に埋れる資源開發の必要を痛感したが、朝鮮は鑛、石採、金鑛も非常に豐富で品位も決して各國に劣つてゐないことは愉快である

消防出初式 京城は六日

京城消防出初式は一月六日午前十時三十分京畿道廳前で擧行、壯觀な分列行進演技、點檢および表彰式などがある

編成難に陷る 慶南の豫算

慶南道の昭和十一年度豫算は地方課で各課に對し去月十五日までに提出方を通牒したが、各課とも緊縮一天張りの編成方針の影響を受けて編成難に陷りなかゝし地方課に提出されず、庫れを切らした同課では再三再四督促した結果漸うして御用繁めの二十八日までに大體において出揃ふことになつたが各課とも目新しき新規事業なく、ことに明年度から約五百餘萬圓の道債中元利三十萬圓内外の償還期となつたので、豫算決定までには相當の紆餘曲折があるものとみられてゐる

早害救濟施設に 四十二萬圓

全北道會で可決

早害救濟施設に關し全北道では二十三日午前十時二十五分から第四回道會を開催、歳入出追加更正豫算を上程、滅場一致原案を可決、結局第二豫備金による國庫補助二十五萬五千五百四圓、道費起債六萬二千圓、その他四十二萬圓をもつて本年の早害救濟事業を起すことゝなつた

全南臨時道會

今夏未曾有の旱害救濟事業に關する十年度豫算追加更正案を附議する全羅南道第五回臨時道會は二十日道廳會議室において開催、十年度歳入出豫算追加更正の件、旱害救濟事業費負担金起債の件その他は何れも原案通り可決した、追加豫算額は歳入出とも六十五萬五千六百八圓で、このうち旱害救濟費關係二十六萬五千三百圓、土木、砂防などの諸工費三十三萬七千九百圓が主なもので、起債額は十萬五千圓である

村振興委員會

本年最終の總督府農村振興委員會は二十六日午後一時第三會議室で開會、宇垣總督はじめ各委員出席

歲末景氣打診

貸座敷など敬

お金は流れるカフ

これも御時

紅灯歳末といはれてゐるが、一體數字の上にどう反映してゐるか、本町署が調査した十二月一日から二十日までの年末景氣調査によると、先づ本町署管内カフエ四十軒、二十日間の賣上高はメて四萬二千圓也で前年に比し二千九百圓の增加、女給さんのチップ一人當り六圓の增收、貸座敷百二十軒、昨年に比し十七戸の減少で好景氣のかけ聲に逆行して減收五千圓の數字を見せてゐる、六十軒の料理屋の增收はあり、總賣上げが十八萬三千圓、一軒一晩の平均は百五十圓近くの上りを見せてゐるから相當なものところがをかしいことは繁華四つの增收は僅かに一千六百圓で十三萬二千圓の上り、貸座敷の減收と思ひ合せて何を物語るか？南店御

足、足、足を

ホク

來年は

四十五萬京城府民の足は師走の歩みとともに目まぐるしい廻轉を續けてゐるが、一日にラッシュする十五萬人の乘客に應へ京電々車では過日バス八十一台、電車百四十六台を總動員してゐるが、いづれも滿員の連續で例月より五分か高二千圓、その他四十二萬圓をもつて本年の旱害救濟事業を起すことゝなつた

全南臨時道會

今夏未曾有の旱害救濟事業を起する十年度豫算追加更正案を附議する全羅南道第五回臨時道會は二十日道廳會議室において開催、十年度歳入出豫算追加更正の件、旱害救濟事業費負担金起債の件その他は何れも原案通り可決した、追加豫算額は歳入出とも六十五萬五千六百八圓で、このうち旱害救濟費關係二十六萬五千三百圓、土木、砂防などの諸工費三十三萬七千九百圓が主なもので、起債額は十萬五千圓である

村振興委員會

本年最終の總督府農村振興委員會は二十六日午後一時第三會議室で開會、宇垣總督はじめ各委員出席

各地から

釜山

釜山富民會遺族校五、六年生六十餘名は愛國婦人會釜山支部主催の國旗奉傳後援デーの主旨に賛同し、去る十八日から府内各所を廻り狀況や通行者などの賛否數賞を行つた結果、純益七圓をあげたので同校六年生車尙哲、鄭敏善の兩少年は二十四日午後愛國婦人會釜山支部を訪問國境警備員慰問金として差出した▲本府學務局内サルタレル財團では慶南道内の私設社會事業團

吉田鑛道局長、西崎理財課長より今秋地方農村振興狀況の報告あり種々希望意見を述べ

明年度より實行すべき指導方針の大綱を示し、明年の具體的實行方法は年内に資料を集めて明春十日ごろ委員會を開き決定することゝなつた

百廿萬通

京城の賀状

遠安上り

エヘ……

乘せの京電

新サーヴィス

菊芋の栽培

忠南で好成績

忠南では養豚增殖計畫に伴ひ飼料自給の方法として菊芋の栽培を昨年來奬勵してゐるが、今秋の收穫は非常な好成績を擧げ、栽培戶數八千二百十二戶、所要種芋數量一萬一千八百八十三貫で、生產數量は實に二十萬八千三十一貫に達し平均一戶當の收穫高は二十六貫となつてゐる

續く同情金

京城府岡崎町若米地道酒類氏は每年府營勞働宿泊所止宿の窮民に同情金を贈つてゐたが、本年も恒例の金一封を宮原同所長へ▲同西四軒町大久保繁雄氏は府社會事業團に金一封を▲通義洞森百合氏は亡夫の忌明に當り五十圓を社會事業團に▲長橋町李鍾興氏は還曆祝ひの費用を節約して四百圓を南部方面事務所に百圓づゝを鎌倉保育院、佛敎慈濟院、天主敎保育院、慈惠園、京城養老院、救世軍育兒ホームに寄附

年の瀨に當り京城府内の薄倖な人人に暖かいお正月を迎へさせるやうと左の如く篤志家の寄附が相つぎ府當局者を感激させてゐる

江原道に本社

二道トラックの打合せ終る

警察協會支部 後援會設く

明春、先づ京畿道に

緬羊を飼育

京畿道も明年度から

京畿道は半島の中部に位し宇垣總督首唱の南棉北羊政策にタッチ出來ないものと見られてゐたが、今春栽培の陸地棉が成功、總督てローガン參加への第一步を印した、消費局では明年度の新規事業としてさらに緬羊飼育を行ひ、宇垣スローガンの全般的にタッチすることゝなつた

本府の御用納式と御用始式

總督府の御用納式は二十八日午前十一時半第一會議室で擧行される、更に昭和十一年の總督府御用始式は一月四日午前十一時第一會議室で擧行、宇垣總督より歸還途上の朝鮮を一層

～寺から里～

肺患者へ この福音

河内の國德林寺の弘願。肺病ロクマク患者へ、釋尊の金言を基礎とし、肺患征服の正しい道を敎へた、松永佛師の著になる『肺病治療の原理』と、寺傳の漢方藥草を公開した『光明のあなたへ』の二冊の本を今スグ『大阪朝日で見た本送れ』と書いてハガキで申込めば無料進呈します。世の病者よ早くこの本を見て正しい養生法を知られよ。（廣告）

河内國小阪町 功德山 德林寺

驛夫人事不省

竊盜容疑にして縊死

籠拔け失敗

會社銀行

運動競技界

南滿工專劍道部遠征團

公私消息

表代產鮮 天佑

表代灘 日本盛

灘屋

伊豆椿ポマスチック

美髮は椿油から！

日本人の黑髮に一番ピッタリ合つた本格的チックです

髮がシラケず 櫛にカスがたまらぬ 適度のカタサ 芳香馥郁、上品なツヤ サラリとした美髮美粧

小 .40 中 .65 大 1.00

伊豆椿ポマード本舖

濕布に エキホス

包裝 一〇〇瓦 二五〇瓦 五〇〇瓦 二 瓩

發賣元 武田長兵衞商店 鹽野義商店

EF 521(O)

會津磐梯山（山田栄一編）

唄 〆香 B面 五尺節 東海林太郎

股旅 オンパレード 解說 鈴木光太郎

ポリドール 流行歌

朝日案內 人事

コーヒーに優る國產品 阿蘇のかほり

地方營業主任 大募集

熊本市東子飼町 日本農產加工株式會社

長崎 文明堂のカステーラ

御歲暮に最適の品

御注文品地方送りは荷造完全敏速に先様へ到着迄責任を以つて御用命承ります

代表社員 川村安次郎 香園合名會社

朝日新聞外地版 全68巻・別巻1の構成

※本書は刊行当初、全65巻・別巻1を予定しておりましたが、その後の調査等により全68巻・別巻1に構成が変更になりました。
※書名下の数字はISBNコードです。「ISBN978-4-8433」を省略してあります。
※表示金額に消費税が加算されます。

A3判・上製・クロス装／平均320頁

配本	西暦	年号	台湾版	朝鮮版					中国版		満洲版		冊数	揃本体価格	刊行予定
第1回	1935 1936	昭和10年 昭和11年	1 台湾版 35,000円 2411-0	2 南鮮版 35,000円 2412-7		3 朝鮮西北版 35,000円 2413-4					4 満洲版 35,000円 2414-1		全4巻	140,000円	好評発売中
第2回	1937	昭和12年	5 台湾版 35,000円 2415-8	6 南鮮版 35,000円 2416-5		7 朝鮮西北版 35,000円 2417-2					8 満洲版 35,000円 2418-9		全4巻	140,000円	好評発売中
第3回	1938	昭和13年	9 台湾版 35,000円 2419-6	10 南鮮版 35,000円 2420-2		11 朝鮮西北版 35,000円 2421-9			12 北支版 35,000円 2422-6	13 中支版 30,000円 2423-3	14 満洲版 35,000円 2424-0		全6巻	205,000円	好評発売中
第4回	1939	昭和14年	15 台湾版 35,000円 2425-7	16 南鮮版・南鮮版B 35,000円 2426-4	17 南鮮版 A 20,000円 2427-1	18 朝鮮西北版・西鮮版 35,000円 2428-8	19 北鮮版 20,000円 2429-5	20 中鮮版 20,000円 2430-1	21 北支版 35,000円 2431-8	22 中支版 35,000円 2432-5	23 満洲版 35,000円 2433-2		全9巻	270,000円	2008年11月
第5回	1940	昭和15年	24 台湾版 35,000円 2434-9	25 南鮮版 B 35,000円 2435-6	26 南鮮版 A 20,000円 2436-3	27 西鮮版 35,000円 2437-0	28 北鮮版 35,000円 2438-7	29 中鮮版 35,000円 2439-4	30 北支版 35,000円 2440-0	31 中支版 20,000円 2441-7	32 満洲版 35,000円 2442-4		全9巻	285,000円	2009年5月
第6回	1941	昭和16年	33 台湾版 35,000円 2443-1	34 南鮮版 35,000円 2444-8		35 西鮮版 35,000円 2445-5	36 北鮮版 35,000円 2446-2	37 中鮮版 35,000円 2447-9	38 北支版・大陸版 35,000円 2448-6	39 中支版 35,000円 2449-3	40 北満洲版 35,000円 2450-9	41 南満洲版 35,000円 2451-6	全9巻	315,000円	2009年11月
第7回	1942	昭和17年	42 台湾版 35,000円 2452-3	43 南鮮版 35,000円 2453-0		44 西鮮版 35,000円 2454-7	45 北鮮版 35,000円 2455-4	46 中鮮版 35,000円 2456-1	47 北支版・中支版・大陸版 35,000円 2457-8		48 北満洲版・満洲版1 35,000円 2458-5	49 南満洲版・満洲版 2 35,000円 2459-2	全8巻	280,000円	2010年5月
第8回	1943	昭和18年	50 台湾版 35,000円 2460-8	51 南鮮版 2 35,000円 2461-5	52 南鮮版 1 20,000円 2462-2	53 西鮮版 35,000円 2463-9	54 北鮮版 35,000円 2464-6	55 中鮮版 35,000円 2465-3	56 北支版・中華版北・中国版北 35,000円 2466-0	57 中支版・中華版・中国版 30,000円 2467-7	58 満洲版 35,000円 2468-4		全9巻	295,000円	2010年11月
第9回	1944	昭和19年	59 台湾版 20,000円 2469-1	60 南鮮版 35,000円 2470-7		61 西鮮版 20,000円 2471-4	62 北鮮版・北西鮮版 35,000円 2472-1	63 中鮮版 35,000円 2473-8	64 北支版 35,000円 2474-5	65 中支版 35,000円 2475-2	66 満洲版 35,000円 3090-6		全8巻	250,000円	2011年5月
第10回	1945	昭和20年		67 南鮮版・中鮮版・北西鮮版 35,000円 3091-3							68 満洲版・北支版・中支版 35,000円 3092-0		全2巻 別巻1	105,000円	2011年11月
			(別巻) 解説 35,000円 2508-7												
合計巻数			全9巻	全34巻					全13巻		全12巻		全68巻・別巻1		
揃本体価格			300,000円	1,100,000円					430,000円		420,000円		2,285,000円		

(注)
1）1935年は各版とも12月のみ。
2）1945年は各版とも1月～3月。
3）各地域の版の主な動きは以下に示すが、数日から1ヶ月程度の細かい版の統合や分離がある。

「台湾版」注
1）1944年「台湾版」は1月～9月3日。

「朝鮮版」注
1）1939年「南鮮版」「朝鮮西北版」は1月～5月9日。「南鮮版A」「南鮮版B」「西鮮版」「北鮮版」「中鮮版」は5月10日から12月。
2）1940年「南鮮版B」は1月～7月6日。
3）1943年「南鮮版1」は1月～9月。
4）1944年「西鮮版」「北鮮版」は1月～8月4日。「北西鮮版」は8月5日から12月。

「中国版」注
1）1938年「中支版」は3月22日～12月。
2）1940年「中支版」は1月～7月6日。
3）1943年「北支版」は4月15日に「中華版北」そして5月28日に「中国版北」へと変わるが「中支版」「中華版」「中国版」の中で4月18日～6月26日がない。5月30日のみ「中国版」がある。

全巻予約受付中（ご注文は最寄の書店にお願いいたします。）

朝日新聞外地版　全68巻 別巻1

[監修] 坂本悠一　A3判上製／函入　分売可●最多価格36,750円（本体35,000円）ISBN978-4-8433-2400-4 C3300

配本予定　※詳細は中面の一覧をご参照下さい

◆第1回配本◆ 1935／1936（昭和10年／同11年）全4巻　『台湾版』『南鮮版』『朝鮮西北版』『満洲版』（分売可）
・揃定価147,000円（本体140,000円）ISBN978-4-8433-2401-1　好評発売中

◆第2回配本◆ 1937（昭和12年）全4巻　・揃定価147,000円（本体140,000円）ISBN978-4-8433-2402-8　好評発売中

◆第3回配本◆ 1938（昭和13年）全6巻　・揃定価215,250円（本体205,000円）ISBN978-4-8433-2403-5　好評発売中

◆第4回配本◆ 1939（昭和14年）全9巻　・揃定価283,500円（本体270,000円）ISBN978-4-8433-2404-2　2008年11月刊行予定

◆第5回配本◆ 1940（昭和15年）全9巻　・揃定価299,250円（本体285,000円）ISBN978-4-8433-2405-9　2009年5月刊行予定

◆第6回配本◆ 1941（昭和16年）全9巻　・揃定価330,750円（本体315,000円）ISBN978-4-8433-2406-6　2009年11月刊行予定

◆第7回配本◆ 1942（昭和17年）全8巻　・揃定価294,000円（本体280,000円）ISBN978-4-8433-2407-3　2010年5月刊行予定

◆第8回配本◆ 1943（昭和18年）全9巻　・揃定価309,750円（本体295,000円）ISBN978-4-8433-2408-0　2010年11月刊行予定

◆第9回配本◆ 1944（昭和19年）全8巻　・揃定価262,500円（本体250,000円）ISBN978-4-8433-2409-7　2011年5月刊行予定

◆第10回配本◆ 1945（昭和20年）全2巻・別巻1　・揃定価110,250円（本体105,000円）ISBN978-4-8433-2410-3　2011年11月刊行予定

本書の概要と特色

◆植民地の事情を克明に記す

『朝日新聞』の九州支社・西部本社で印刷され、現在西部本社に所蔵されている、いわゆる「外地」の地方版を年別、版建てごとに集成復刻する。対象地域は朝鮮、台湾、満州、そして中国であり、期間は1935（昭和10年）12月1日から、1945（昭和20）年3月までである。

◆特殊状況下の紙面構成

日本の東アジア進出に伴い、新聞社も台湾、朝鮮、満州、そして中国で販売網を広げ、各地に支局を設けるなど進出していった。また、国家や軍部の意をうけた紙面作りをせざるを得ない戦時下であり、とくに「外地」という特殊な状況で、「外地」地方版は発行されていた。

◆様々な分野での研究の史料

本書によって、1930年代半ばから敗戦までの10年間に、日本の新聞が地方版という形で、東アジア各地の動向をどう報道したか、あるいは各地の統治政策とどう関係していったか、など興味深い問題が提示され、また、個々の記事はもとより地域毎に異なる様々な広告などが通覧できるようになり、諸研究の史料として活用されることが期待される。

◆東アジア地域史・メディア史

戦前・戦中期の日本史、台湾史、朝鮮史、満洲史、中国史、また新聞史、メディア史などの研究に資する史料。

◆別巻に詳細な解説を付す

第1回は、1935（昭和10年）12月1日から、1936（昭和16）年12月末までの分であり、内容は「南鮮版」「朝鮮西北版」「台湾版」「満洲版」である。以降、各年を1回ずつ、年2回刊行してゆく。1945（昭和20）年3月まで、全65巻を予定している。なお、版建ては以降、分割されまた統合されてゆく。別巻には詳細な解説を付す予定。

ゆまに書房 YUMANI SHOBOU
〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL .03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方
日本近代史、植民地史、アジア史、メディア史の研究者、関係研究機関など。

ご注文書

ゆまに書房　Tel.03(5296)0491／Fax.03(5296)0493　年　月　日

朝日新聞外地版　セット

お名前

ご住所　TEL　(　　)

取扱店

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

HP

08.10/01.3000.H